

全日本テコンドー選手権大会準優勝

樽本 佳奈 さん
 (米湊)



朝鮮半島の伝統的武術で、韓国
 国技でもある「テコンドー」。華麗で
 多彩な足技が何よりの特徴で、その
 スピーディな動きから別名「足のボ
 クシング」ともいわれます。

樽本佳奈さんは、今年3月に東京
 国立代々木第2体育館で行われた
 「第20回全日本テコンドー選手権大
 会」個人組手女子マイク口級で、見
 事準優勝に輝きました。

樽本さんとテコンドーの出会い
 は大学生の時。新生入生としてクラブを
 見学したことがきっかけでした。「テ
 コンドーを見たのはその時が初めて
 でした。先輩たちの姿がとてもかっ



▲鮮やかな蹴り技が決まります。

こ良くて、それまで格闘技の経験は
 なかったけれど、私もやってみたい
 と思ったんです。」

2年生からはクラブのほかにも道場
 にも通い、試合前には他大学の練習
 にも参加して技を磨きました。

これまでに経験してきたのは「勝ちた
 いと思うのではなく、必ず勝つとい
 う気持ちで試合に臨む」という先生
 の言葉です。その信念で、昨年行わ
 れた中四国大会で優勝を飾り、全国
 大会への切符を手に入れました。「全
 国大会の決勝は、中四国大会で勝っ
 ていた選手が相手でした。負けた試
 合で終わってしまったので、すぐに
 は準優勝の実感もわからず、悔しい気
 持ちでいっぱいでしたが、メダルを
 いただいて、改めて喜びも感じまし
 た。」

樽本さんが属する45kg以下のマイ

ク口級が種目として採用されたのは
 今から2年前。それまでは自分より
 も大柄な選手を相手にすることが多
 く、試合ではどうしても不利になる
 ため、「自分には向いていないので
 は…」と悩んだ時期もあったそうで
 す。それでもやめずに続けたいこと
 で段をこらうことができ、自信につな
 がりました。「一見できそうにない技
 も練習するうちにできるようにな
 ります。『継続は力なり』ということ
 を身をもって感じました。」

また、「礼に始まり、礼に終わる」
 ことを基本とし、礼儀を重んじる武
 道の精神から、技術以外にも多くの
 ことを学んでいます。「目上の人へ
 の礼儀や上下関係も教わりました。
 それが人を大切に思う心にもつな
 がっていると思います。」

現在初段の樽本さんは、12月に行
 われる昇段試験に向けて、練習に励
 む傍ら、週に一度、愛媛道場指導員
 として成人女性を対象とした教室で
 指導にもあたっています。「一人ひ
 とりできることが違うので、それぞ
 れに合った指導をするように心掛け
 ています。テコンドーはだれにでも
 気軽に始められるスポーツなので、
 もっとたくさんの方に広まってほ
 しいです。」

小柄な体格ながら、柔軟性とス
 ピードを生かした力強い足技を披露
 してくれた樽本さん。穏やかな笑顔
 の奥に、凛とした芯の強さを感じら
 れました。